

# 巻頭言

## JCEJの国際的ステータスの向上を目指して - Impact Factor, その悩ましきもの -



宍戸 昌広

本会の出版する二つの論文誌(*J. Chem. Eng. Jpn. (JCEJ)*, 化学工学論文集)は、その長い歴史の中で編集および出版のプロセスが変わり続けています。原稿の投稿と審査はご承知のように ScholarOne Manuscripts™ 上で進められています。電子化された投稿と審査システムの運用開始以降、システムの様々な改良や新機能の付与なども進められており、投稿および審査システムの電子化はほぼ完了したと言ってもいい段階に来ております。もちろん、今後も細かな改良を加えつつ、さらに良好なシステムへと変遷を遂げていくことでしょう。電子化という大きな変革にご尽力された歴代の編集委員会および事務局の皆様にご敬意を表する次第です。また、論文審査にはエディタの方々ならびに査読者には大変な責務を担って頂いております。ここに篤く感謝いたします。

さて、英語論文誌 *JCEJ* は、事務局の様々な広報活動の甲斐もあって、今では年間投稿数が400近くあり(2017年の投稿数: 389)、その7割ほど(286)が海外からの投稿という状況で、国際的ジャーナルとしての位置付けを次第に確たるものにしてきておりますが、将来に向けて、国際的なステータスをさらに向上させていきたいものと考えております。そのための方策の一つが、*JCEJ* の Impact Factor (IF) の向上です。

IF に関しては、その解釈に様々な考え方や意見はあるものの、学術誌の購入の一指標として活用されているのは事実です。IF は、その学術雑誌がどれだけよく読まれているかを示す指標の一つでもあり、同じ代金なら多くの人に読んでもらえる学術誌を図書館は購入するでしょう。似たようなレベルの学術誌なら IF の高い方に投稿するという同業者も多いようです。*JCEJ* の IF に関して言えば、ここ10年の間、0.442(2010)から0.644(2014)と微増減を繰り返しつつほぼ横ばい状態が続いています。2017年は0.635と2016年の0.629から微増しました。IF 値向上に関しては、歴代の編集委員会で議論を重ね、様々な対策を講じてきました。そうした中で、昨年(2017)の芝浦工大での第82年会の折り、National Taiwan Universityの王大銘(Da-Ming Wang)教授と会食する機会があり、台湾の化学工学会の雑誌についていろいろとお話を伺うことができました。台湾には、*J. Taiwan Inst. Chem. Eng.* がありますが、この雑誌の IF は2010年時点では0.573と *JCEJ* と同程度の数値でした。それが2011

Aiming at Improving the International Status of *JCEJ*

- Impact Factor, that annoying things -

Masahiro SHISHIDO (正会員)

1982年3月 山形大学工学部化学工学科卒業

1984年3月 山形大学大学院工学研究科化学工学専攻修了

1987年3月 東北大学大学院工学研究科材料化学専攻単位取得退学

1987年4月 東北大学工学部助手

1989年3月 東北大学 工学博士

1989年4月 山形大学工学部助手

1996年4月 山形大学工学部助教授

2007年4月 山形大学工学部准教授(職名変更) 現在に至る

連絡先: 〒992-8510 山形県米沢市城南4-3-16

E-mail [sisido@yz.yamagata-u.ac.jp](mailto:sisido@yz.yamagata-u.ac.jp)

年には2.11まで跳ね上がります。きっかけは、当時非常にホットな分野のレビュー論文が投稿されたことだったそうです。以来、正のスパイラルとでも言うべき状況で高いIF値を維持し続けているとのことでした。ちなみに、近隣および欧米の主要な化学工学関連の学術誌について調べてみれば、アメリカ(*AIChE J.*)は2.96(2015)、カナダ(*Can. J. Chem. Eng.*)は1.15(2015)、イギリス(*Chem. Eng. Res. Des.*)は2.81(2015)、中国(*Chin. J. Chem. Eng.*)は1.25(2015)、韓国(*Korean J. Chem. Eng.*)は2.007(2017)、台湾(*J. Taiwan Inst. Chem. Eng.*)は3.849(2017)となっています。しかしながら、ここ10年ほどの各雑誌のIFの推移を観れば、現在の *JCEJ* と同じような数値から現在の数値まで上昇している雑誌も多く、やはりある程度戦略的にIFの向上を図ってきた結果の現在の数値と考えられます。

IFを向上させるための対策としては、いくつか考えられますが、編集委員会としては、引用件数を稼いでくれるようなレビュー論文を増やすことにいたしました。エディタの先生数名にお願いして編集委員会内にIF向上ワーキンググループを設置しました。具体的な活動としては、その時点でホットな分野を選び、その著名な研究者にレビュー論文の執筆を依頼するというものです。これは、一種の Editor's Choice に類似する論文になるのではないかと考えております。

*JCEJ* の現状と、国際的な競争力を備えた学術雑誌としてのステータスを向上させるための取り組みについて紹介させて頂きました。論文誌編集委員会では、二つの論文誌を良いものにするべく、様々な取り組みを今後も続けていくつもりです。会員の皆様におかれましても、論文誌の変化の方向性に関するご意見を賜りますようお願い申し上げます。